H30年度補正予算シンガポール事業報告

東京青果㈱輸出室

事業概要・コンセプト

- 事業概要　展示会出展、商談、取引開発、マーケティングリサーチ
- 展示会名　Ｆｏｏｄ　Ｊａｐａｎ　2019　シンガポール
- 開催期間　２０１９年１０月３１日～１１月２日、３日間
- 場所　　Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre ホール 401-402
- 出店規模　９㎡、ブースＮｏ；Ｄ２１
- 出店者数　209社
- 来場者数　10828名
- 商談件数　１０件
- 期間中商談先往訪　２件
- 開催者　　Food Japan実行委員会 (OJ Events Pte Ltd)
- 共同出展者　㈱松源、静岡温室農業協同組合クラウンメロン支所

実施内容

①陳列展示・試食提供

品種	提供方法	画像	評価	総評
市田柿	カット＋クラッカー		ヨーグルト等なんにでもあわせやすい。食感と甘さが好評。	従来の展示会のように素材をカットして試食させるのではなく、スィーツやパーティ・ブッフェでの使用を想定した試食提供を行った。 来場者数が少なく、日本産青果物の認識度が高いシンガポールにおいて食べ方の提案は、商材に対する興味を持たせる点で成果があった。
ななみつき	カット＋鴨スモーク		鴨ローストと胡椒をまぶして非常に相性が良く、公表である。品種が少し軟性。	
クラウンメロン	カット＋生ハム		非常に良い。但しメロンの熟成が早いと生ハムに食感が合いにくい。	

②アンケート調査　１７件

日本産青果物の購買経験	100%	
購買品目	りんご12件、さつまいも１１件、もも６件、トマト６件、柿６件、わさび６件、いちご６件	
	メロン５件、ぶどう４件、大根３件、レタス、梨、じゃがいも、キャベツ各２件	
購買目的	自身が食べる為　　100％	
購買先	伊勢丹7＞明治屋6＞ドンキホーテ5＞高島屋３＞コールドストレージ２	
	イオン、さくらや、、Ｔｏｋｙｏ　Ｓｕｐｅｒ各１	
日本産青果物購入の際の注意点	価格１２件＞品質１１件＞鮮度１１件＞真贋３件＞産地名３件	
	オーガニック２件、安全性２件、製造年月日１件	

展示状況

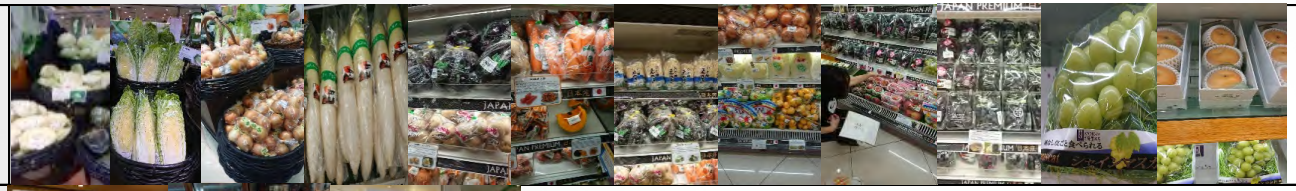
国産品のみの展示会の場合、酒、魚、お茶などに集客が偏ってしまい。
生鮮青果物としては展示と試食により一層の工夫が必要であった。
従来通りの補助事業精算適用項目以上に応用的な活用が必要と思われる。

実施内容

④マーケティングリサーチ（シンガポール）

目的　ドンキホーテの拡大により既存小売業における適正価格販売への影響確認

調査先　明治屋、高島屋、伊勢丹、パジール・パンジャン市場

明治屋		
高島屋		清酒も販売しており高級感がある。
伊勢丹	*写真データが破壊 ＊上述３店舗ではドンキの影響度は少なく、品揃えの充実と買いやすさで対抗していた。	
パジール・パンジャン市場		日本産生鮮青果物はＨＵＰＣＯ社のみ確認できた。

実施内容

⑤マーケティングリサーチ（ジョホールバル）

目的　　シンガポールの労働層および消費エリアとしてマレーシア政府の巨額開発新興地で国産品の可能性を探る。

調査先　ＦＲＵＩＴ　ＮＡＴＵＲＥ（ＪＥＴＲＯクアラルンプール紹介案件）

　　Ｖｉｌｌａｇｅ　Ｇｒｏｃｅｒ（日本産の取扱がない）

結論　　急速な人口拡大とシンガポールへの労働力として拡大しており、所得も伸びている。

華僑系富裕層も多く、戸建てに住んでいる。ＦＮ社とはこの事業以後エアカーゴで３回輸出実績有り。

事業総評

- Food Japan・・・来場者の半分は一般、残り半分は関係者とおもわれ、新規取引開発をこの展示会で発見することは難しい。
  展示品は酒、米、お茶、加工品など販売期間が長い商品が多く、バイヤーの担当商材が異なる。
  ホテル納品業者も対象となるが、日々小ロットでの受発注であることから従来商流を飛び越えるメリットが少なく
  シンガポールへの観光者には日本産の生鮮青果物は興味が薄い。
- シンガポール・・・「ドンキホーテ」の存在感が強いが、今回事業活動を通して「金持ちはドンキが嫌い、行かない」という声を
  多く聞いた。顧客層による棲み分けが出来ていると思われる。
  とはいえ従来のモダントレードの商流は確立化しており、今後は飲食業やケータリング等外食・サービス業態や
  Eコマースの事業者をターゲットとしていきたい。
- マレーシア(ジョホール・バル)
  ・・・中国資本による、ものすごい規模とスピードで開発が進んでおり、無人高層マンションが林立している。
  平日はシンガポールで就業（通勤）するミドル～ミドルアッパーが増加しており、全ての税金が安いので
  週末にはシンガポールから余暇や消費の為に越境することが日常茶飯事である。
  このエリアは投資開発が進む進むだけではなく、「香港-シンセン」のような大規模な経済エリアに発展する
  可能性が高く、今後は「シンガポール＋ＪＢ」としてと同一経済圏として把握して輸出推進すべき
  と思われる。ただし、物流は税関がシンガポールとマレーシアにあり、しっかり関税もかかるうえに
  イミグレーションは渋滞して時間がかかる、植物検疫は行っていないようである。

以上